

◆ 広葉樹を活用した森林造成

群馬森林管理署、吾妻森林管理署（群馬県）、天竜森林管理署（静岡県）

① 林業的な活用を目指した広葉樹造成（群馬森林管理署：群馬県）

【取組概要】

群馬署では、多種類の広葉樹を密植・混植する造林方法により、通直で利用価値の高い広葉樹造成を目指し、本数密度別、天然更新、針葉樹植栽の試験地を設定して、比較検証を実施。

【取組状況】

<造成状況及び経過>

○H22年 4月： 植付実施

・ 面積： 約10ha

・ 樹種： 広葉樹11種（コナラ・クヌギ・ミズナラ・ヤマグリ・ケヤキ・ヤマザクラ・トチノキ・スダジイ・シラカシ・アラカシ・ブナ）

針葉樹 2種（スギ・ヒノキ）

・ 試験地： 広葉樹の本数密度別、天然更新箇所、針葉樹の下刈有無、獣害防除柵の有無により6区域を設定。

○H22年 7月： 下刈実施

○H22年10月： 下刈の有無による針葉樹（スギ・ヒノキ）の成長量調査を実施。現在のところ、上長成長、肥大成長、共に差は認められない。

○H23年 1月： 常緑広葉樹（スダジイ・シラカシ・アラカシ）も、順調に成長している。

<まとめ>

- ・ 現在のところ樹種の目立った差は見られない。
- ・ 来年度以降、下刈無しの地域では雑灌木による被圧の恐れがある。

【今後の予定】

引き続き、生育状況を調査。また、隣接地にコンテナ苗（スギ）を植栽予定。



H22年4月植栽後



H22年10月の状況



H23年1月植栽木の様子

② 宮脇方式を取り入れた広葉樹造成（吾妻森林管理署：群馬県）

【取組概要】

吾妻署では、山腹緑化工について、多種類の広葉樹を密植・混植する工法「宮脇方式」を取り入れ早期の復旧を図る。

※ 宮脇方式とは、その土地に従来から生息する種を選定し、複数種の木を混植・密植することで、木の成長過程に自然淘汰や共存共栄を促す方法。

【取組状況】

<造成状況及び経過>

○区域設定：比較検討のため、工事箇所を3区域に区分し、H22年10月に植栽

- ・ A区：宮脇方式による植栽（多種の木本類を10千本/haで植栽）
- ・ B区：通常の植栽（従来の緑化用木本類を3千本/haで植栽）
- ・ C区：マット伏工（草本類による山腹緑化工、木本類は植栽しない。）

○経過調査

- ・ A区では、植栽箇所に敷わらを行ったため、イノシシによる地表の掘り返しが行われ、苗木が掘り返されるなどの被害が出た。
- ・ 施行地の一部は地域で行っている、榛名湖ふれあいの郷オーナーの森林づくり活動の一環としてボランティアにより植栽した。

<まとめ>

- ・ イノシシの掘り返しによる苗木被害が出ているため、防護柵等の対策が必要。
- ・ 植生の早期回復については調査段階であり、今後のデータ蓄積が必要。

【今後の予定】

今後、数年間にわたり定期的に区域毎に樹高、直径等の測定を行い、数値としての成長を把握していく予定。



左：宮脇方式（赤枠） 右：従来の方式（青枠）



宮脇先生による現地視察

③ 地域に根付いた広葉樹造成（天竜森林管理署：静岡県）

【取組概要】

天竜署では、台風による風倒被害地について、多種類の広葉樹を密植・混植するなど、多様な造林方法を取り入れ、新たな造林手法の検証を行う。

【取組状況】

<造成状況及び経過>

署内に、「地域の森林」再生プロジェクトチームを立ち上げ、被害箇所において広葉樹による更新、検証を行うことを決定。

○第1回、第2回打ち合わせ

- ・ 被害箇所20.76haのうち、広葉樹更新区域として5.17haを設定、他の箇所15.59haについてはスギ等による更新とする。
- ・ 現地で近隣広葉樹の植生を調査。

○第3回、第4回、第5回打ち合わせ

- ・ 広葉樹更新区域5.17haのうち、人工更新区域2区画2.52ha、天然更新区域2.65haのエリアを設定。
- ・ 植栽樹種は、植生調査で出現した広葉樹とする。
- ・ 苗木は、東海地域で採取された種子を育成したものに限定する。
- ・ 植栽は、地元小学校や一般公募ボランティアで実施することを検討。

<まとめ>

- ・ 植栽等を、地元小学校や一般公募ボランティアに行ってもらうことにより、地域に根ざした森づくりが可能。
- ・ 植栽はH24年度末を目標。

【今後の予定】

植栽樹種の苗木生産を地元種苗業者等への要請。
地元小学校6校について、平成23年度中に森林教室を実施。
被害木の林外搬出はH23年度末完了見込み。



第3回打合せ（現場）



伐倒搬出完了箇所